

人類の生存と平和のための科学を探求し、
分野をこえて科学者が協力共同する学会

日本科学者会議

あなたの入会を心から呼びかけます THE JAPAN SCIENTISTS' ASSOCIATION

科学は人類の知的財産です。科学の進歩は、人間の認識を広げ、生産技術を発展させ、生活の利便を向上させ、社会を変革してきました。しかし、深刻な経済格差、貧困と人権抑圧、戦争・地域紛争は解決していません。人類は科学的知識を応用して、核兵器さえもつくり出しました。環境汚染や気候変動などの問題は、存続可能な社会をつくるという難題をつきつけています。分子生物学等の著しい進歩は、新たな生命倫理の確立を要求しています。科学者が自覚と責任をもち、分野をこえて協力してこそ、こうした課題に挑むことができます。

日本科学者会議(JSA)は、このような要請に応えようと、1965年に創立されました。以来、人文・社会・自然科学の枠をこえて、研究者・教育者・技術者・弁護士・医師・大学院生・地域の市民運動家など多彩な会員が協力しあって、研究活動を展開してきました。会員は、都道府県の支部、職場・地域の分会、全国や支部の研究委員会などを基盤に、日常活動をしています。会員の研究交流や研究成果の発表の場として、月刊誌『日本の科学者』を刊行し、隔年に「総合学術研究集会」を、毎年「若手夏の学校」を開催しています。高等教育・研究体制を守り民主的に発展させるという課題にも、力を入れて取り組んでいます。「女性研究者・技術者全国シンポジウム」は14回を数えます。海外の科学者団体との連絡・交流も、積極的に行っています。

また、先端的な研究成果の普及活動、学校教育や社会教育を市民の立場に立って発展させる運動、さまざまな社会問題を取りあげたシンポジウムや市民講座の開催、核兵器廃絶や環境保護の運動など、多彩な活動を、国民・市民と広く共同して展開しています。特に、東日本大震災・原子力災害の惨状に直面して、地震・津波防災、原発事故被害の全面賠償と除染・汚染水対策、放射性廃棄物の処分管理、原発廃止と自然エネルギーの普及、農林水産業や地域社会の再生復興などに、私たちは総力をあげて取り組んでいます。

このように、JSAは、科学を人類の真の幸福に役立たせるために、市民と連帯し、関係団体と協力・共同して、学問と社会のあるべき姿を探求し、科学の成果を社会へ還元することを課題として活動しています。あなたも一緒に取り組みませんか。JSAは、あなたの入会を心から呼びかけます。

原発ゼロの社会を目指し、幅広い市民と協同して活動

東日本大震災、原発災害を目の当たりにし、JSAは改めて原発に関する科学者の社会的責任を痛感しました。そして、科学者の立場から、原発ゼロの社会を目指して様々な研究活動を進めています。このような活動は、幅広い市民の方々とも共同して行っています。また、JSA創立50周年記念行事として、国際シンポジウム「移行：原子力から再生可能エネルギー」を開催する(2015.4.)など、国際的な連帯も強めています。

月刊の会誌『日本の科学者』を刊行

月刊の会誌『日本の科学者』は人文・社会・自然科学を網羅した総合学術誌です。様々な分野の最先端の話題や、科学者と社会との結びつきを、どの分野の研究者にもわかりやすく紹介するよう、努めています。

都道府県ごとの支部を基盤に、全国で活動

都道府県ごとに支部があり、職場や地域に根ざしてシンポジウムや研究会、市民運動との連携など、多彩な活動をしています。JSAの活動においては、支部こそが基盤です。また、全国に9地区を置き、近隣支部が連携してシンポジウム等を開催しています。

多様な研究委員会、問題別委員会を設置

様々な社会的課題に対して研究する「研究委員会」と、科学・研究、あるいは科学者・研究者が直面する諸問題について検討する「問題別委員会」を設立し、組織的に研究活動を行っています。現在、18の研究委員会、7の問題別委員会が活動しており、その成果をシンポジウム等の形で社会に発信しています。

ウェブサイトを充実させ、会内外に発信

誰でも読める手軽な電子本"JSAeマガジン", 全国各地の企画案内、『日本の科学者』総見出し、これまでに発表した声明・決議などを掲載しています。

会則を認め所定の会費を納める科学者(研究者, 教育者, 技術者, 医師, 弁護士, 大学院生, 市民運動を担う方など)は, 会員1名の推薦でご入会になれます。

会誌『日本の科学者』と多数の出版物



1. 人類の生存と平和的繁栄のために、研究を行い、社会へ働きかける

この地球上で環境を守り人類が永続的に生存するために研究を行うことは、科学者の社会的な責任です。様々な要因による破壊から環境を守り、貧困や飢餓、病気、社会的不平等をなくし、戦争のない平和な社会の実現、また、人間としてより豊かな生活が保障される社会の実現のために、研究や教育、社会への働きかけを行うことが、JSAの活動目的の一つの支柱です。そのためにJSAでは分野をこえて科学者が集まり、地域でも、全国でも活動しています。



科学技術政策シンポ「高学歴ワーキングプアの解消を目指して」を共催(2010年)



汚染土仮置き場見学(2013年・伊達市)

東日本大震災・原発事故後、シンポジウムや講演会を全国で数百回開催してきた



2. 高等教育と科学・技術の真の発展のために、発言し行動する

現在の日本の科学技術政策や高等教育政策では経済効率のみが尺度とされ、教育・研究機関は競争原理や評価制度に縛られて、自治や研究教育本位の運営が損なわれ、学問と社会の関係のあり方が歪められています。科学を人類に正しく役立てるといふ本来の視点から、関係団体とも協力し、科学・技術の研究教育や大学・研究機関のあるべき姿について発言し運動すること、科学者や学生・院生の権利を擁護することが、JSAの活動のもう一つの柱です。

3. 科学者としての力量を、会員相互が協力して高めあう

教育研究機関に所属する研究者は、論文数や獲得した研究資金といった一面的基準による業績評価に追いつかれて、孤立させられています。狭い領域で目に見える成果は出せても、学問や科学のあり方を深く考え、視野の広い研究者をめざすのは困難です。これでは研究者としての生き甲斐を容易に見出せません。JSAでは、科学の普遍的な価値と科学者の社会的責任を自覚し、今日の社会でそれをどう具体化するか模索し、科学者が相互に支え合って、活動を通じて成長しあえる組織づくりに努めています。それが、専門学会にはないJSAの特徴であると自負します。

4. 若手や女性研究者とともに歩み成長し、科学と研究教育の場を継承発展させる

高学費と劣悪な奨学制度、任期付や非正規雇用の常態化、雇止め、理不尽な競争と評価などの歪みの中で、いま若手や女性が当たり前前に教育研究に当たるのも困難です。そうでなくとも、院生・若手研究者は、研究の仕方や研究室での人間関係、将来の進路など、多くの悩みをいただくものです。若手は「自己責任」で悩みや困難をひとりで抱えがちです。JSAでは、次代の社会を形成し科学を担う若手層を重視し、ともに歩み成長しようと取り組んでいます。

JSAは毎年「若手夏の学校」を開催するなどし、異なる分野を専攻する院生・若手研究者が全国から集い、お互いの研究の紹介・ベテラン研究者からのメッセージ・研究の方法についての議論、社会の諸問題に対する科学者のあり方など、充実した内容で活発に交流しています。若手や女性の委員会も設置され、企画の立案実施や政策提言などを行っています。若手や女性研究者、非常勤の研究者など困難な立場の方が、異なる分野・職場・年齢層の人々との議論と協力を通じて、広い視野で学問を考え、科学者としてともに成長できることに、JSAの特徴があります。

5. 各地域・分野で科学的活動を担っている市民・技術者・専門家とともに歩む

JSAは、現代社会にまん延する非科学・反科学の潮流を批判し、科学的精神を持ち、主権者にふさわしい知識と判断力を備えた国民の育成をめざして、学校教育や社会教育の実践やその改善に取り組んでいます。平和、環境・農業、医療・福祉、人権、まちづくりなど、様々な分野で科学的活動を担っている市民・技術者・専門家の方々が積極的に入会し、地域でも全国でも活動を進めています。多くの退職した研究者も、こうした社会活動に活躍しています。



「若手夏の学校」開催風景

異分野の院生たちに研究内容を発表



宮城で被災地を見学



「もんじゅ」見学

